

2024年度 日本工学院八王子専門学校											
柔道整復科											
物理療法実技											
対象	2年次	開講期	後期	区分	必	種別	実技	時間数	30	単位	1
担当教員	星野虎之助、後藤晃弘			実務 経験	有	職種	柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)				
授業概要											
部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。											
到達目標											
物理療法の理解や探求する力を身につけるために、各物理療法の用いた際の生体への反応の法則を理解することを到達目標とする。											
授業方法											
この物理療法とは柔道整復師の行う後療法の中に含まれ、物理療法の生体への反応や効果を理解し、患者さんへ実践できる学問である。物理療法に関しての基礎知識から応用知識までを学び、基本的な患部への実践と応用的な実践といった技術を習得する。											
成績評価方法											
試験と課題を総合的に評価する。											
履修上の注意											
学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
教科書（柔道整復理論編一般社団法人全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。											
回数	授業計画										
第1回	マクロショックとマイクロショックを理解する。										
第2回	電気療法の使用の仕方を習得する。										
第3回	温熱療法の表面過熱と深部加熱の違いについて理解する。										

柔道整復科

物理療法実技

第4回	温熱療法の生理学的作用を理解する。
第5回	ホットパック療法の利点と欠点、使用方法を理解する。
第6回	パラフィン浴療法の利点と欠点、使用方法を理解する。
第7回	超音波療法のBNR、ERA、キャビテーションを理解する。
第8回	1回～7回までの振り返り
第9回	超音波療法の生理学的作用を理解する。
第10回	超音波療法のパルスや周波数の設定について習得する。
第11回	超音波療法の効果と禁忌、電気療法との併用について習得する。
第12回	極超短波療法の生理学的作用を理解する。
第13回	極超短波療法の原理について理解する。
第14回	極超短波療法の使用方法を習得する。
第15回	9回～14回までの振り返り